第 2015-40 号

恵みと真理のニュース

2015 年 10 月の一次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。と約束した御言葉のおとり全ての祈りに答えてくださった神様を賛美します。

私は神様を信じない家庭で生まれ早く高校のとき父を失って祖母と母のもとで育てられました。長女として兄が一人、弟が三人いました。貧しい家庭だったので友達より2年遅く高校を卒業して大きい電子会社に入社しました。会社の寮で生活しながらイエス様を信じる同僚知り彼女に伝道され主日に会社の食堂で捧げる礼拝に参席してイエス様を信じました。若い23歳にとき旦那に出会って結婚ししばらくの間プサンで暮らして急に転勤によってスワンで引っ越しました。

慣れていない所で同僚の夫人が私に親切してくれて仲良くなり彼女の勧めで仕方なくついて行ったら異端の集団でした。当時それが異端のことを知らなくてしばらく会館、公設運動場へついて行きました。今は安手執事になり神様を信じ支えていますがその時には夫の兄もその団体の一員になって深く考えないまま子供達をつれて彼らと一緒に行きました。そうするうちに彼らから魅惑されそこの教えと教理だけ信じて教会に通っている人をむしろかわいそうに思っていました。しかし、幸いに万世以前から私を子供として選んで神様の恵みでその異端から抜け出して聖書の通り神様を信じ支えるようになりました。その異端で行なう悪い行動が見始めて、国と家庭より彼らの教理と法を従うように強く要求させるのが疑問になりました。その時に真実に神様を支える人から伝道されました。その方の紹介で牧師の御言葉に感動を受けて教会に戻って来ました。

教会に通うようになるとそこで責任を持っている者はもちろん夫の兄まで迫害を受けました。しかし、主は強く導いてくださり勝つことが出来ました。神様の助けを願いながら祈って神様はそんな私に勇気を与えてくださって最後まで勝利を与えました。その後から一番の夫の姉を除いて全ての家族がイエス様を受け入れ正しい信仰で熱心に奉仕して主を支えるようになりました。

旦那の健康が悪くなってしばらくの間田舎で住んで再びスワンに引越ししました。新しく引越した家を作った方の紹介で恵みと真理教会に通うようになりました。スーパーマーケットを運営しながら過ごしました。しかし問題は旦那でした。旦那はそのときまで福音を拒否して神様を不信しました。私は信仰生活を熱心にして教会から下さった職分を感謝する心で献身と奉仕する一方旦那の救いのため切に神様に祈りました。

ある日は牧師が店で訪問しました。その時ちょうど旦那がいたのでむりやり共に礼拝をしました。その日、神様は旦那を御言葉と聖霊で変えてくださり神様を信じる決断をしました。そして、その時から家族が回しながら店の番をして熱心に礼拝中心で生活しました。娘は小学生ころ聖霊洗礼を受け息子は教会学校で高等部会長を担うほど全ての家族が主を支えました。10年が超えても喘息で苦労している旦那を見たら 喘息 だけ治るとうらやましい事はない人生でした。

旦那は発作性喘息を患っていて何回も救急車に運ばれ病院に行きました。家族は神様に祈り委ねて、危機の時に神様の助けを多く体験しました。また夜中旦那がトイレで倒れました。夜中2時に救急者を呼んで急いで勧士と首区域長に連絡しました。すぐ走ってきた勧士と首区域長は切なく神様に祈り礼拝をしました。車が遅く来たにもかかわらず旦那は無事でした。病院では奇跡だと言われました。神様が旦那を助けてくださいました。ところが、そのように熱かった信仰が職場に出勤しながら徐々に冷め始めました。初めは職場を通いながらも熱心に信仰生活をすると自信を持っていましたが人と仕事の事で疲れ目で見えない神様に礼拝する事から疎かになりました。主の御言葉を聴くのを疎かにすると信仰を守るのが難しくなりました。

その時期に息子も軍隊に入隊して兵役をしながら以前のような熱かった信仰が冷めてしまいました。すると家庭に苦難が来ました。神様の恵みで今までいた喘息症状以外は60歳が過ぎても健康だった旦那が胃癌3期の診断を受けました。すぐ入院して手術をするうちにリンパまで転移され末期癌の判定を受けました。抗癌治療を受けても治らないと言われました。その時から私は疎かにした信仰生活を悔い改めて治療してくださる神様、主ラパを委ね1000日を午前の断食祈りをしました。旦那が抗癌治療を受ける間、旦那の代わりに職場に通い最優先で礼拝をしました。そして5年が過ぎて聖書を16回も読みました。神様の御言葉で力を得て慰められ、恵みで希望を得ました。教区長をはじめ多くの聖徒の祈りも大きく慰められ力になりました。副作用もなく抗癌治療を終えた旦那は2年が過ぎで再び再発してこれから6ヶ月しか生きられないと言われました。私は絶望しなくて神様を信じ仰ぎました。するとヒゼギヤの祈りを聞いて答えてくださった全能なる神様は私と旦那と聖徒の祈りに答えてくださいました。7回も再発して繰返して放射線と抗癌治療を受けながらも生死の瀬戸際もありましたがその時期を越えて7年の長い闘病の末に癌が治りました。医師はもちろん他の患者と保護者までこんな患者は初めだと神様の奇跡だと言われました。旦那は退院してすぐ月曜祈り会に参席して感謝祈りを捧げました。旦那は上弱だった体でしたが神様が下さる平安で何年間、平安で過ごしながらまた会うことを約束しながら神様に召されました。6ヶ月も生きられないと言われたが十年も以上生きました。その間子供達は結婚して孫のかわいらしいぐさも見て病気や苦痛もない天国に行きました。神様に感謝をします。神様は私を愛し信仰を堅固にしてくださるように様々な試練も下さり助ける恵みで克服し問題を解決してくださいました。

旦那が天国に召されて10ヶ月が経て息子が公務員の試験準備をすると言い通っていた会社を辞め荷物を包んで家に戻って来ました。やさしくない試験なので心配でした。息子の決心が強いことであるのを確認してから息子が合格するまで一日一食断食をし切に祈りをしました。息子は試験勉強してから8ヶ月ぶりに合格しました。今回は急に娘が甲状腺癌にかかって断食祈りをしました。今回も神様が治療の手をだしてくださり手術が成功してすぐ回復しました。治療だけでなく神様は経済的にも祝福を与えてくださいました。今までの旦那の病気で職場生活で奉仕と伝道に熱心しなかったことが心の荷物ですた。しかし、今は軽い心で全ての礼拝に休まず参与して聖歌隊でも最善を尽くして奉仕します。一人で生活をしますが日曜日は忙しいことを感謝し恵みと教区と区域の愛の中で寂しさも感じられなくて幸せな人生を過ごしています。御言葉の恵みを願い平信徒の聖書学校と聖書大学も終了して進士の職分も得ました。

忍耐は練達を、練達は希望を生むように導く神様、練達を通してもっと堅固な信仰を持つようにしてくださり多様な救いを体験して主の栄光を表した神様、今日も礼拝と奉仕の楽しむを享受するようにしてくださる神様に心から感謝します。“わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。と約束したその御言葉の通り私の全ての祈りを答えてくださる神様を賛美します。私の力を尽くして主が呼ばれる日までひたすら主を愛し真面目で担えられた職分を尽くします。ハレルヤ！

［信仰コラム］　あなたがたのうち にある所望に関する理由

“ あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。… ”(ペテロの第一の手紙, 3 :15)

所望の一杯な生活は聖徒の特徴の中の一つです。 イエスキリストを信じればすべての場合に確かな根拠と明らかな理由がある所望を持つようになります。
第一に、患難の中にも所望があります。
人が一生を生きて行く間にさまざまな患難を経験するようになるがクリスチャンには無意味な患難がないです。 患難は私たちの信仰を堅固にさせて純粋にさせてくれます。 クリスチャンは患難が持って来る有益が分かっているから患難によって絶望する事がないです。 “なぜなら、このしばらくの軽い患難は働いて、永遠の重い栄光を、あふれるばかりにわたしたちに得させるからである。”(コリント人への第二の手紙, 4:17)というお言葉を体験するようになります。
二番目で、逼迫を受ける中にも所望があります。
聖徒は逼迫に適っても気落ちしないです。 むしろ逼迫の中に所望を持って神様が身近にいらっしゃって助けを体験するようになります。 それだけではなく逼迫受けることで神様に賞を受けるようになります。
イエスキリストがおっしゃるのを
“わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。” (マタイによる福音書, 5:11,12)としました。
三番目で、経済的な困難と窮乏に処しても所望があります。
神様の子になった私たちに日用する糧食を責任を負ってくださるという約束をしました。 究極的にクリスチャンは貧乏になることができないです。 神様がくださった企業の光栄の豊富さとその能力の極めて所有した人々であるからです。 故郷が天国であるクリスチャンはこの地でしばらく住むうちにたとえ経済的に難しくても卑屈ではなくてどんな境地でもいつも自足することができます。
四番目で、肉体的障害と病んだ中にも所望があります。
聖徒は奇跡的な治癒といやさるの恵みに対する約束のお言葉を受けました。 すべてのやまいがすべて治ることではないがそれでも所望があります。 障害やか弱い状態でも神様の能力を負っているからです。 それだけではなく将来私たちは復活の身を着るようになります。 病むとか死なない身、私たちの想像を超越する身を持つようになります。
五番目で、死にも所望があります。
人間は死の前ではなすすべがないです。 もとのままに死を受け入れると言っても相変らず死は人間に絶望的な問題です。 死は存在の滅絶ではないからです。 この地に住むうちにその魂が救いを受けることができなかった者には死後に言えない苦痛が待ちます。 イエス様がおっしゃるのを “わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか。”(ヨハネによる福音書, 11:25,26)と言いました。 イエスキリストは人生に死に対する恐れの解決だけではなく死にも所望を持たせてくださいました。 聖書箴言書に “悪しき者は死ぬとき、その望みは絶え、不信心な者の望みもまた絶える。”(箴言 11:7)と言ったし、“ 悪しき者はその悪しき行いによって滅ぼされ、正しい者はその正しきによって、のがれ場を得る。”(箴言 14:32)と言いました。 永生を所有したクリスチャンには死亡が決して王にならないです。 “私は永生の生命を持ったし天国を向けて行っています。” これがすべてのクリスチャンが所望の中で生きて行く理由の一つであります。

所望なしに世の中で道を探し込む可哀相な魂に所望の福音をのべ伝えることはクリスチャンが持った特権で大きい喜びに違いないです。 私たちは真実の所望に関する確かな兆候を持ちました。 私たちの主イエスキリストによるあがないの恵みと口約束のお言葉がそれです。 皆さんは所望が一杯な聖徒らしく生きて行ってください。 そして皆さんの中にある所望に関する理由を多くの人にのべ伝えて彼らもこのような所望を持つように導いてください。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

信仰で触った女人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

“誰が私の衣のふさに手を突き出したか?” イエス様のこの質問は周囲の人々を戸惑うようにしました。 誰も予想する事が出来ない突発的な質問であったしその質問する意図が分からなかったからです。 イエス様がこのような質問をするようになった状況はこのようです。 イエス様がカリリの東の方にゴラサ地方で活動を終えて船に乗ってカリリ海の西側のガペナウムへ帰って来ました。 イエス様が浜辺に到着すると大きい群れが彼に集まって来ました。 その時一人が急に前に出て来てイエス様の足下に伏せました。 彼は会堂長でした。 会堂長は全心で懇請しました。 “自分の幼い娘が死ぬようになりました。 私の家へいらっしゃってその子供に手を上げて治してくださって暮させてください。” イエス様がその要請を受け入れて会堂長とともにいらっしゃるのに多い人がイエス様を囲んで押しながら付いて行きました。

その時に顔の青白い女性一人が人々の間に挟まって入って来てイエス様に近付こうと労力していました。 その女人は長血の患者でした。 おおよそ 12 年の間を長血に苦しんで来ました。 虚弱になった女人がその身を導いて群れの中に割りこんでイエス様の位に近付くするのはたやすい事ではなかったです。 その女人が何の理由で死に物狂いでイエス様に近付こうと思うことですか? 自分がイエス様の衣のふささえ手を出しても長血がいやすと信じたからです。 ついに女人はやせて血の気ない手を突き出してイエス様の衣のふさを触りました。 その瞬間出血がとどまりました。 女人は病気が治ったことが分かりました。 すべて形言しにくい喜びが女人の心を一杯に満たしました。 その時でした。 イエス様がいらっしゃった歩みを止めました。 イエス様が人々を見回しながら “誰が私の衣のふさに手を出したのか?” と質問しました。 イエス様が周囲を見回したら長血をいやし受けた女人が恐ろしがって震えてイエス様の前に出て来て伏せてすべての事実を申し上げました。

本文には “女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。”(ルカによる福音書, 8:47)と記録されています。 女人は自分がイエス様の衣のふさに手を出した始末を言いました。 “私は長血を病んでいました。 長血病者になってから 12 年になりました。 私は長血を治して見ようとあまり労力しました。 有名な病院はすべて捜し回ったし処方どおりしようとしてあらゆる苦痛をすべて耐えて来ました。 しかしどんな効能がなくてむしろ病気はもっと重くなったしこれからはお金もなくなってしまいました。 ある日から私はイエス様に関するお話をきき始めました。 ついにイエス様が誰かが分かるようになりました。 私はイエス様の衣のふさに手だけつけてもいやしを得ることを確信しました。 ちょうどイエス様が通るといううわさをきいて私は到底つつしむことができなかったです。 無礼で道理がないとおもいながらもイエス様の衣のふさに触りました。” イエス様がおっしゃいました。 “娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい 。”

イエス様が “誰が私の衣のふさに手を出したのか?” と質問した理由を詳らかによく見ます。

第一理由は、信仰の手を突き出してイエス様の衣のふさを触った女人に恵みの上に恵みを加えるためであるからです。

イエス様が天国の秘密をおっしゃる時 “おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。”(マタイによる福音書 13:12) としました。 イエス様は長血をいやしを受けた女人に “娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです 安心して行きなさい” という恩寵を加えました。 イエス様は “娘よ”と呼んだ親しい呼称と “信仰があなたを救ったのです” “平安に行きなさい”と言う祝福を加えました。イエス様は１２年間も不正な病気に苦しんで蔑視を受けた女人を向けて “娘よ”という呼称を使うことでこれからは不正な者ではなく神様の子としての清めが回復したことを確認させてくださったのです。 また “平安”を宣布したことは神様がくださる平安を享受することができるようになったことを知らせてくださったのです。 このようにイエス様は信仰でイエス様に出て来る人々に恵みの上に恵みを加えます。

二番目理由は、イエス様の衣のふさガ病気の治す能力があって長血病者がいやしになったと誤解しないようにためであるからです。

イエス様が会堂長ヤイロの家を向けてそのまま進行して行ってしまった場合を考えて見ましょう。 長血病の女人はそっと後に退いて自分の家に帰ったはずです。 そしてまず自分の家族に次は親戚や隣り人々に証ししたはずです。 そうした時 “イエス様の衣のふさには治療する能力がある。” という迷信的な考えをする人々ができる可能性があります。 本文に記録されている長血の女人に関する事件記録を見ればベテロが “主よ群れが擁護して押すのです。” したらイエス様が “私に手を出した者がいるこれは私から能力が出たのである。” とおっしゃいました。 “私から能力が出た。” と告げました。 イエス様から能力が出たというお話は神様の能力によって女人の長血病にいやすという事実を明らかにしてくれます。 信仰でイエス様に出て来た女人にイエス様の衣のふさはその瞬間イエス様の能力に接触する接触点の役目をしたのです。 治療の能力の出処はイエス様です。 イエス様はこのような事実を明らかに分かるようにするために足を止めました。 そして幾多の人々がイエス様に近付いて押しながら衣のふさを触ったが奇跡的な治癒を経験した人はただ一人だったという事実を現わしました。 そしてイエス様の衣のふさが治療したのではなかったということを明らかに教訓なさったのです。

三番目理由は、神様の能力は私たちが直接経験するように許諾されたことであるから信仰の手を突き出して神様の権能に接触しなさいという教訓をくださるためであるからです。

イエス様が長血がいやされた女人の口で自分がイエス様に手を出した理由と自分がどのように直ちにいやしになったのかを人々の前で話すようになさったことは私たちのためなのです。

神様の能力は私たちが直接経験するように許諾されたのです。 信仰の手を突き出して神様の権能に接触しなければなりません。 ベテロがイエス様に “先生、群れが先生を囲んで押しています。” と言ったにもかかわらずイエス様は “私に手を出した人がいる。” と答えました。 “誰かが私を触った。” まるで東問西答のように聞こえるお話です。 ところでここに非常に重要な教訓があります。 神霊なメセジがあります。 イエス様の返事を注意深く聞いて見てください。 “誰かが私を触った。私から能力の出たことを私が分かっている。” としました。 その多い触りの中の別の触ることがありました。 その 触りは信仰の手を出した触りでした。 イエス様が女人に “娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい 。” とおっしゃったお話がこれを説明してくれます。

そうするので “誰が私の衣のふさに手を出したのか?” というイエス様の質問は “信仰で私の衣のふさに手を出した者が誰か?” という質問でした。 会堂長ヤイロの娘をいかすことを見物しようと付いて行く見手の中にイエス様の衣のふさに接触した者が多かったです。 しかし救いを得ることができなかったです。 イエス様に対する正しい知識と信仰を一緒に持たなければなりません。 救いを得ようとすればイエス様を自分の救世主に分かって信仰で迎接して神様で仕えなければなりません。 ヨハネによる福音書 にこんなに記録されています。 “神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によってこの世が救われるためである。”(ヨハネによる福音書 3:17)、 “ 御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は、命にあずかることがないばかりか、神の怒りがその上にとどまるのである」” (ヨハネによる福音書 3:36) “ 彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。”(ヨハネによる福音書 1:12). その女人はイエス様に対する消息をきいてメシアであるのを心に信じました。 そしてイエス様の衣のふさに手だけつけてもいやしを着るものだと信じました。 そしてイエス様から “あなたの信仰があなたを救ったのです” という恵みのお話をきくようになりました。

長血で病む女人がイエス様の権能を体験するために信仰の手を突き出して接触したことはイエス様が着ている上着でした。 今日の皆さんが接触することができるイエス様の上着は聖書の言葉です。 信仰の手を突き出して聖書の言葉をつかんでください。 従順の手でつかんでください。 イエス様は忙しい歩みを止めてイエス様の衣のふさに信仰の手を出すので救いを得た女人を呼び出しました。 それからは群れがすべてを見てきくように自分に起こった事を証ししました。 皆さんは神様のお言葉を信仰でつかんでください。 行うことでつかんでください。 そして神様がくださる救いと能力と回答を受けてこれを人々に証しするように願いします。